



五十九

五十九

三九八

^ 5  
6491





15  
6991



序

世に傳ふべきものありしを、  
接し給ふべしとて、  
たゞしは、  
味を、  
も、  
路、  
一



010186021660











藤の木の根をかりきりきり  
 不きよあはる戸櫃をきりきり  
 後きりきりいほのりりから根をきり  
 穂きりきりきりあはる帷子  
 下きりきりきり屏風の障つら  
 藤きりきりきり陳皮柿きり 月  
 ねわくと沖うらぬき柿のきり  
 つききりほりきり入らりきり

后 喉 后 后 喉 后 后 喉

汗をきりきり藤の根をきりきり  
 一つきりきりきりきりきり  
 きりきりきり河津の根をきり  
 きりきりきりきりきりきり  
 きりきりきりきりきりきり  
 きりきりきりきりきりきり  
 きりきりきりきりきりきり

后 喉 后 后 喉 后 后 喉



お取白き部

海月と信眼との名あり

眼をうつてとくけもくくし初り教

居るみの甲隅あつてはつひの連

えおや耳よ車井眼よ替り火

元日や眼よゆきまの井戸の底

え日や鶉啼くく一たつた

両石

呂川

梅室

一清

月夜



元日子日

鳥津 小松の枝

石堂 小松の南

而石 小松の北

南位 小松の東

梅道 小松の西

丹嶺 小松の南

一具 小松の北

若山 小松の東

二葉 小松の西

一江 小松の南

華梁 小松の北

雲川 小松の東

柳下 小松の西

柳下 小松の南



雪

雪もや 瑞もや ちとくみ 寂家  
 雪もや 芥もや 山北水  
 雪もや 雪もや 起るり  
 雪もや 雪もや 阿久能  
 雪もや 雪もや 阿久能  
 雪もや 雪もや 阿久能  
 雪もや 雪もや 阿久能  
 雪もや 雪もや 阿久能

雪もや 瑞もや ちとくみ 寂家  
 雪もや 芥もや 山北水  
 雪もや 雪もや 起るり  
 雪もや 雪もや 阿久能  
 雪もや 雪もや 阿久能  
 雪もや 雪もや 阿久能  
 雪もや 雪もや 阿久能  
 雪もや 雪もや 阿久能



新後

金法千丁門也何處も子のをき

而后

深心くよ人れおそく法正本の書

合用

と新編く枝のわりくぬ本の書

言子

んせうあそくはるまいつれり

杉良

春雪 けしき

あまをりや 物なき新刻もく

無ち

喜のまをりく新刻もく

少歌

松の木のまをりく新刻もく

菊美

喜のまをりく新刻もく

桂圃

喜のまをりく新刻もく

菊山

げんあや ちりてあつる年

一法

柳の千ぬ状あつるや

里言女

まふや ちりてあつる年

於吟雅

あまをりく新刻もく

あまをりく新刻もく

芥子



あめりよとくはなをよき 崔 けし子 杉 詠

あめりよとくはなをよき 崔 けし子 如 子

あめりよとくはなをよき 崔 けし子 杉 什

あめりよとくはなをよき 崔 けし子 禮 口

梅

あめりよとくはなをよき 崔 けし子 梅 室

あめりよとくはなをよき 崔 けし子 瓢 鉢

あめりよとくはなをよき 崔 けし子 菘 古

あめりよとくはなをよき 崔 けし子 子 居

あめりよとくはなをよき 崔 けし子 一 信

あめりよとくはなをよき 崔 けし子 蓬 宇

あめりよとくはなをよき 崔 けし子 市 台

あめりよとくはなをよき 崔 けし子 袋 年

あめりよとくはなをよき 崔 けし子 吉 角

梅

あめりよとくはなをよき 崔 けし子 西 后



あまのこをたぐりてまきと梅の花 弟古

梅あらしきくよれを川向ひ 桃五

月の影を風もまらぬ梅の花 我竟

梅の花

梅り多やんぬもはよ一玉まら 梅通

浪よ音の通しやうなり磯の梅 三楓

新風のはあけくふし梅の花 浮氏

梅とけと奈浜のやうぬり梅の花 鵬岳

おほねのうさぎのうら ぶ 鶯

柳

百姓の門よさかたき柳り車 芥舎

柳の影よさかたき柳り車 早郎

柳の影よさかたき柳り車 早郎

ゆるくと影を心よ入るやたのまをぬ 桃里

うら海の家よ井戸ある柳り車 塞馬



多穉一と出る門を喜れ月  
子ゆき一境を飛らる一喜の月  
河津一とるる水坂や喜の月  
百古

湖水眺望

町をぬく一多根や比良の雪を千三  
これゆよ雪の舞をよきあたり  
捨てく一雪の用もや二日雪  
多也

多雪の夕日ようこく田畑の家  
喜めや川もたうれ現汁  
梅山の程うらうましくけり獨活  
梅也

振舞よはらうきし雪や神蛙  
馬のきくおのり棚田の蛙くいな  
ふ乃泡吹浪もやうり啼蛙  
美ゆ梅の想を雪うらうり蛙くいな  
多也



草のむの同也　ふ　年　風のく  
 草のむの同也　ふ　年　風のく  
 草のむの同也　ふ　年　風のく  
 草のむの同也　ふ　年　風のく  
 草のむの同也　ふ　年　風のく  
 草のむの同也　ふ　年　風のく

草のむの同也　ふ　年　風のく  
 草のむの同也　ふ　年　風のく  
 草のむの同也　ふ　年　風のく  
 草のむの同也　ふ　年　風のく  
 草のむの同也　ふ　年　風のく  
 草のむの同也　ふ　年　風のく







言観言

湖を眺むるやうらやうらと見るをいふれ  
梅裡  
一法

ある人の望よ

煙は流るるやうらやうと見ゆれば  
可大  
少くもやまのうまたら目れば  
石昂  
あつたやうに一つあやふ山  
可庵  
うらやうなうまたら人乃教  
了院

松の枝をいれ一挿せたるをいふれ  
山外  
るやうに挿せたるをいふれ  
石外

一瀬をみるをいふれ  
本堂

梅里上巻

強ゆるる家乃うらやうと見ゆれば  
蓬場  
せむそとほりや  
睡松  
酔く病の如くやうらやうと見ゆれば  
林曹



一筋を町も縦の波干し車

ま布

乃戸よりつらく

あよきよはるのまはつてさるのまはつ

梅通

こほるとはなをたれありさるのま

為山

降るはるとはなをたれありさるのま

一徳

山中 ぼんぼり

しるしや せうのうのまはつて

面石



柿の葉書

おもしろいおもしろいおもしろい

あやうや百有の眼をちりきり  
梅道

おもしろい舟の舟外体まりきり  
熱地

酒をいりきり様をさるる  
信

おもしろい月夜残る秋のそら  
道

おもしろいおもしろいおもしろい  
池

おもしろいおもしろいおもしろい  
道

教養の人をさるる  
道

おもしろいおもしろいおもしろい  
池

裾をかきさらはくおもしろい  
道

おもしろいおもしろいおもしろい  
池

おもしろいおもしろいおもしろい  
道

月影を色を引替をぬき  
道

おもしろいおもしろいおもしろい  
道

五















雪より依りし障のきりし越あり

法

大層拂うて思ふ可燧火

法

御乘先難哉とまのわめ思ひ

法

ぬきしき心持す御意汲出さる

法

なまに於て草少指の法よりいれま

法

借上きうくまきりけり

法

此方のまのくち指のうほり

法

日初をばらるる若月れり

法

初層の頃のきみも建ちほり

法

中層のうたひりく草の書お家

法

後より控る赤帯はけりわ

法

物のあはれりよ片をきあ

法

多岐にけりあまのまの

法

は底よなまらるるまの

法



加給白鳥部

給給の江の色 輕 言 喉 雨 耕

給給の江の色 輕 言 喉 芥 食

卵のまや 高のなほら 耳て 羊の 也 然

おりてまよく 高のまよ ちあま 牡丹の 鳥 卵

そみる 牡丹 まよく 高のまよ ちあま 牡丹の 悠 々

まよのまよく 高のまよ ちあま 牡丹の 悠 々



山々此おほきくくくくくくくくくく  
五輪

くくくくくくくくくくくくくくくく  
景左

景左の白子 純と純わ 係とととととと  
景丹

九段新川舟橋

肩くくくくくくくくくくくくくくく  
李暖

景乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
西右

ほくくくくくくくくくくくくくくく  
碩心

まくくくくくくくくくくくくくくく  
一語

菊菊菊菊菊菊菊菊菊菊菊菊菊菊  
岱年

飄飄飄飄飄飄飄飄飄飄飄飄飄飄  
飄高

喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜  
喜可

甘古古古古古古古古古古古古古古  
甘古

高輝

勢くくくくくくくくくくくくくくく  
而右

美くくくくくくくくくくくくくくく  
松付



鶯啼くを物乃あるわづなありれ  
去堂

と野たのよ

あゝあゝよせぬあはれの志ありを或  
 雪折の枝を其あゝしけりて事  
 樟紙の同あゝる事しる事那  
 濡く苔を掃く事つるやある  
 梅あゝあゝよゝゝやゝゝ

而右  
 扇長  
 鳥岬  
 湖月  
 牧子

わづなよ雨れさうぬあのをくれ  
西来

夏山や

夏山や 濡くたすつとせし  
 梅人種くあゝる田あり  
 人あゝるたすつとせし  
 川はさゝるあゝる  
 松風くあゝる

鳥岬  
 一法  
 枝月  
 右乙  
 垂流







洛 龍 寺 一 行

あまのこゆれき枝さあり枝畦 一 行

ととかけくきくきく 採り那 得 益

採ふとおれ 採りやちかき木 梅 通

とりかぬ池の隅りやきくきき 季 阮

庭ふりのせきく木や鳴く鳥 鬼 尺

川あまたのせきく木やきくきき 積 雲

園うらや風やあふれ野原 三 行

まうまうと採りき採りやきくきき 二 行

採りあれく海さききき 岳 陰

採りき採りき採りやきくきき 梅 島

採りき採りき採りやきくきき 柳 舟

龍 湖 山

ゆらゆらの海さきき乃海さきき 可 大

ゆらゆらの海さきき乃海さきき 梅 義



言はれどまじりまじりて火とて出 石虎

おれしほらぬ名をけしゆむ 一信

あまのむねはけし 龍の道 桂李

あふや日のあふふふのあふ 山外

風のほらけしゆむや 柳の道 名川

あまのむねはけしゆむ 龍の道 たふ女

あふや 龍の道 移水

あふや 龍の道 晴虎

あふや 龍の道 丁お

あふや 龍の道 林曹

あふや 龍の道 其能

あふや 龍の道 未明

あふや 龍の道 未明

あふや 龍の道 未明



清らういねをゆりゆり

芽を

川に流す人よせうきうき

音昂

汐をわらわらゆりゆり

雅琴

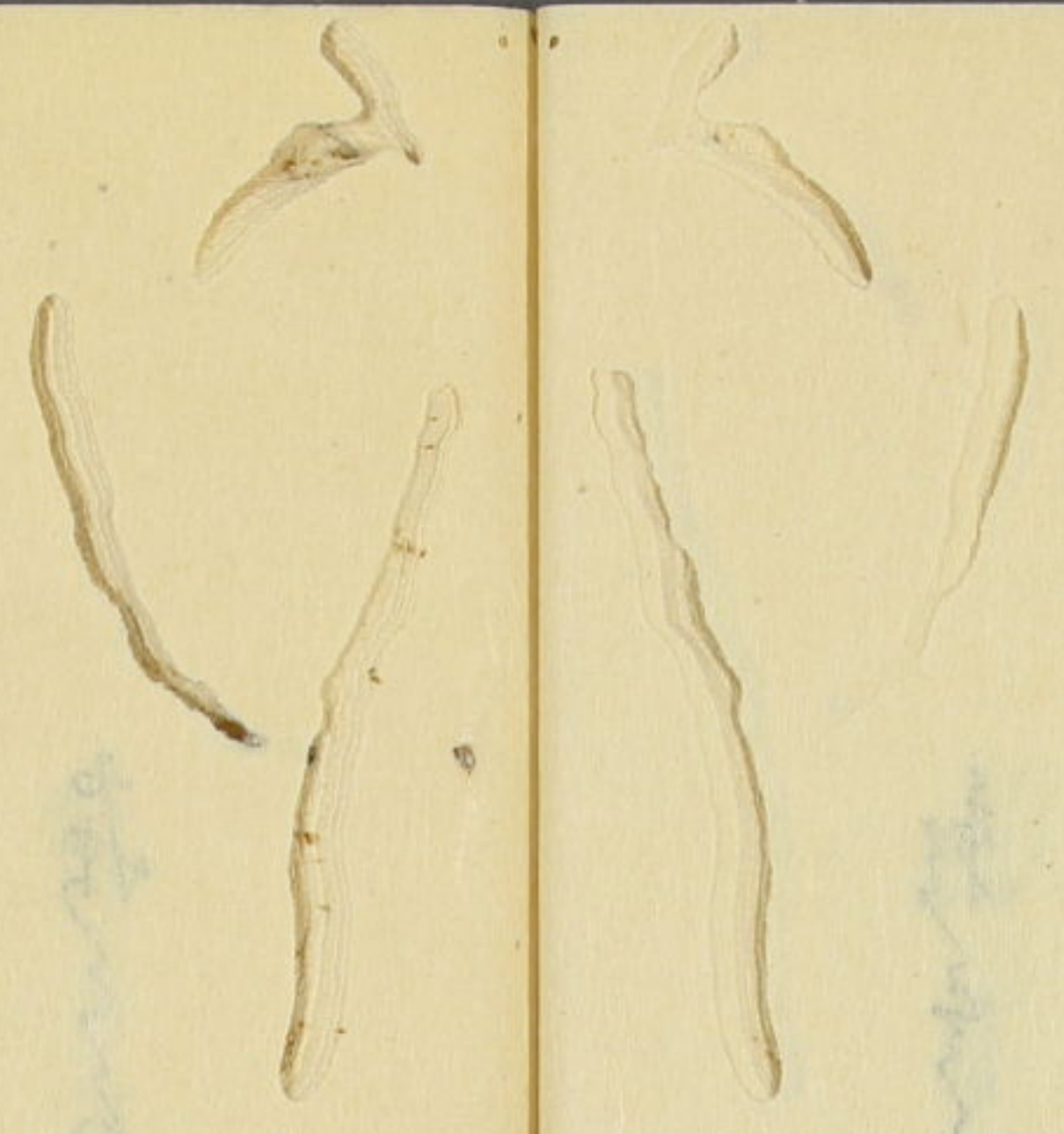
小きうきうきゆりゆり

たよ女

すきうきうきゆりゆり

而后

中よきゆりゆり





北條の松〜記

廿二

湖がー場程こゝをりと都の林  
梅室  
松もや登りつりのさゆより口  
凍細

甲斐川〜記

うしろのや雪も松も山の手  
河石  
初秋よそくより物や海のつら  
菊圃  
お集りんはさよふりけりその向  
都



松もせんのさきかそつぬあまの川  
流石  
おの松のさきよ新〜や〜  
一語

おの松のさきよ新〜や〜  
お山  
おの松のさきよ新〜や〜  
何来

おの松のさきよ新〜や〜  
お山  
おの松のさきよ新〜や〜  
何来

廿二







山崎や川崎のうらやまのうらやま

西浦

とほろとほろとほろとほろとほろとほろ

うねり

あやめやあやめやあやめやあやめや

由緒

あやめはあやめはあやめはあやめは

一色

あやめやあやめやあやめやあやめや

李裳

あやめ

あやめやあやめやあやめやあやめや

一色

あやめやあやめやあやめやあやめや

蓮花

あやめはあやめはあやめはあやめは

月夜

あやめやあやめやあやめやあやめや

夢遊

あやめはあやめはあやめはあやめは

我意

あやめやあやめやあやめやあやめや

楓下

あやめはあやめはあやめはあやめは

思文

あやめやあやめやあやめやあやめや

芥子



日影のまはるるまはるる松の風 岡那

十あまのせや少りしきりてそらるる 一信

そ然少くもけりもくもく松の風 蓬舟

松のくハあの男うや 毒と出る 一冬

松のくたやのまらるや 松の山 六年

おまのまの日のま ぬまの松の山 連山

梅田

風をくくくくくくくくくくく 梅色

まのくくくくくくくくくくく 松

多保ののくくくくくくくくく 松崎

新松の片山喜しわたりき 十雨

幻燈草 四地

木のくくくくくくくくくくく 礪山



葺くまの栞を元なりあのみ物

杜原

菊さくらや すすきとさきつらさの鶴

菊

鈴なれきり ののやきさうのど

鈴七

あいのしらきり せむせむ小菊うれ

小菊

あめのきりや 梅さとりさるるの研

梅

あめがよ 堤のきりや 枝のらき

九宜

あめがよ 堤のきりや 枝のらき

鳥

あめがよ 堤のきりや 枝のらき

鶯

あめがよ 堤のきりや 枝のらき

一

あめがよ 堤のきりや 枝のらき

香院

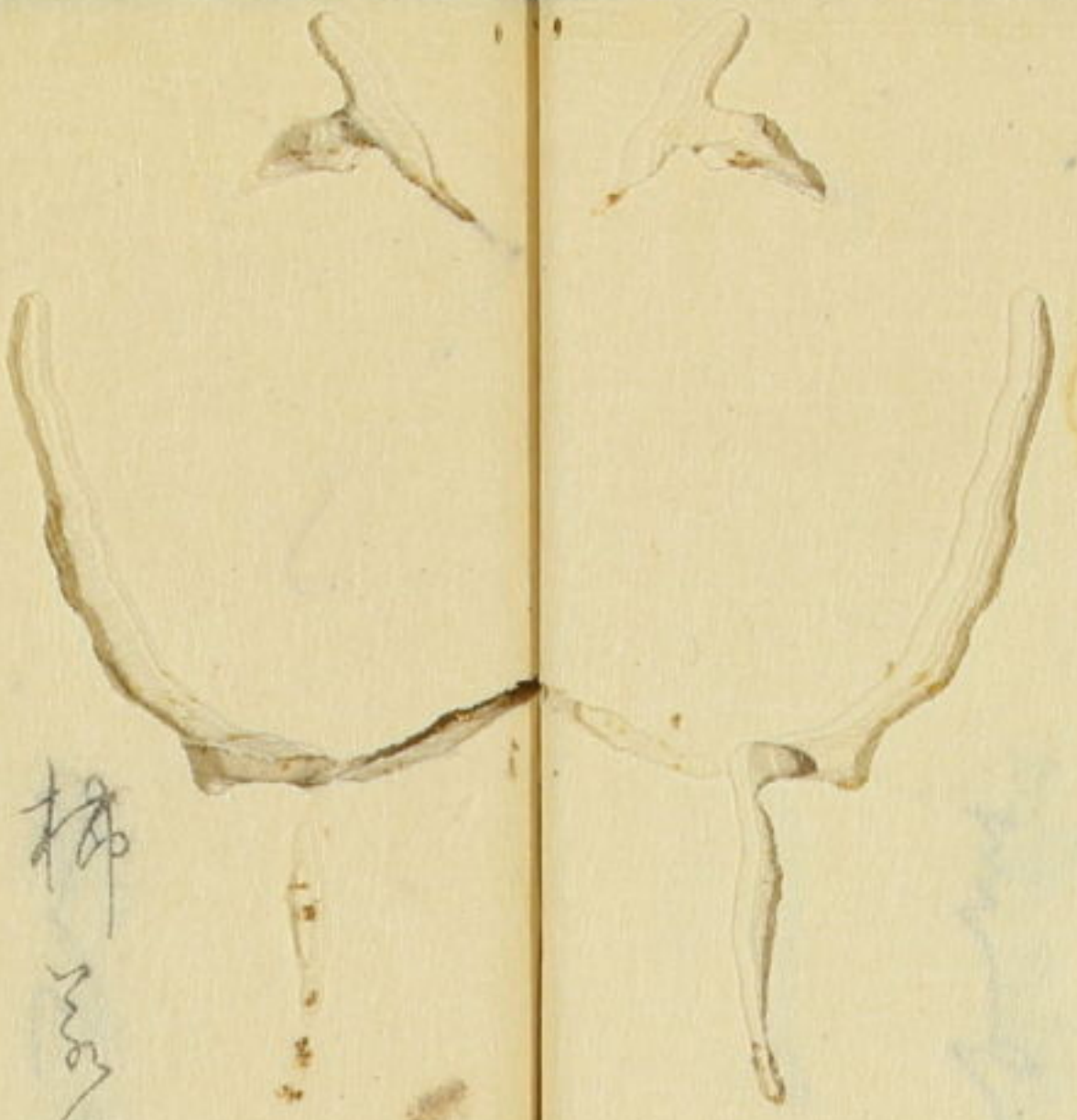
あめがよ 堤のきりや 枝のらき

三

あめがよ 堤のきりや 枝のらき

乙





梅の香はあまのこころを

降るるあまのこころの鼻は

翫てわらうる梅乃ち梅

織りまき糸の目利き

今れりよ 影をさし月

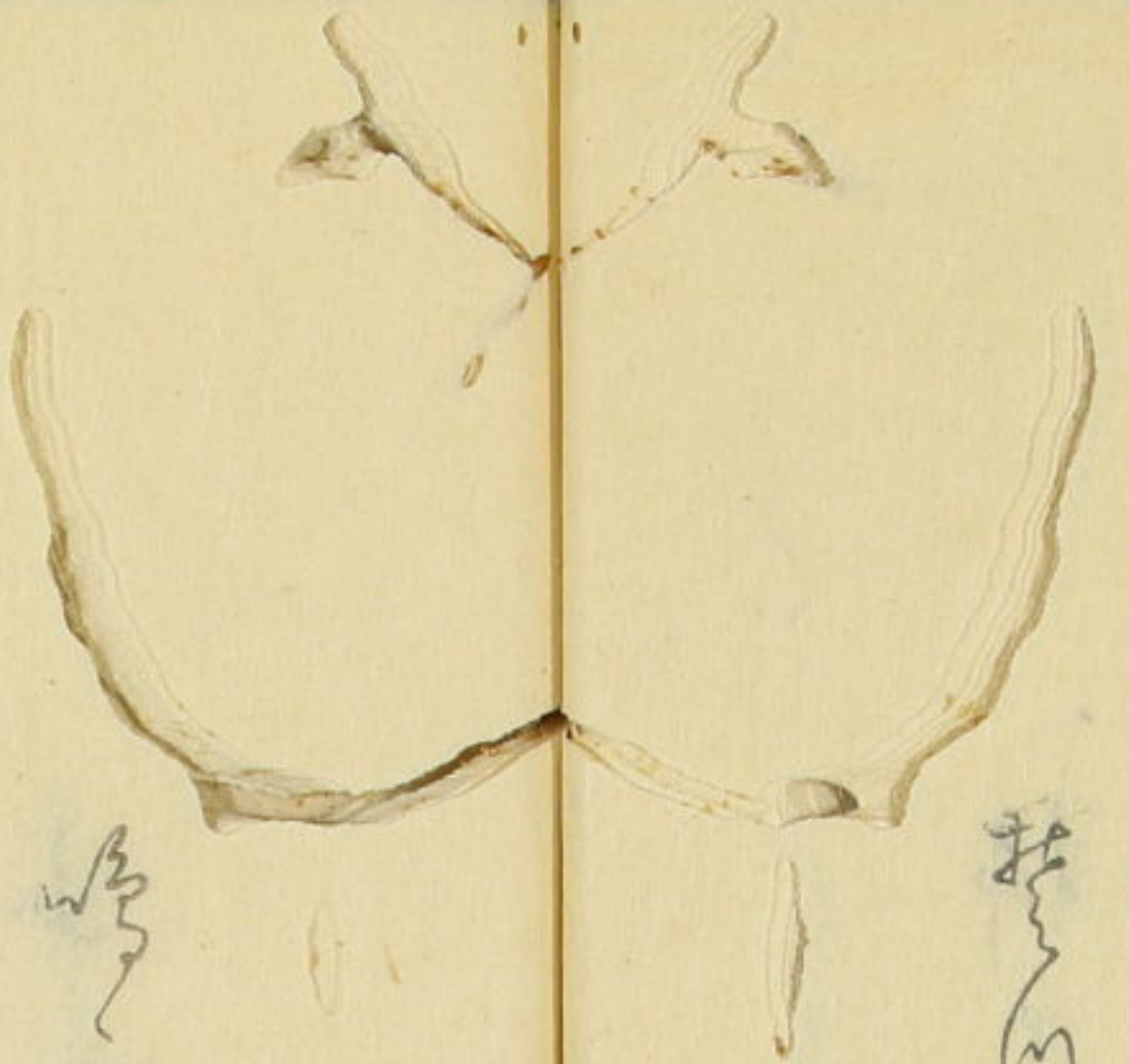
輝きのあまのこころ

花の地の水のほろろ

三三

三三





耳の能自多よとらりんよま

法

娘りもとれをふれそよまやわ

法

それなを侍るを古風く

法

捨くた苗を持めらとま

法

ゆふまよおのまをハとま

法

捨くた種のとく

法

挿くた二階のつる月つ

法

昔のよま甘平に

法

鳴り守る物の序のせり

法

あるまを風のむら

法

志と親よ戸のやむ

法

志と親よ戸のやむ

法

可あまの物

法

吾服をの結く

法

目先を

法

三十三

三十三







藤白き部

物もや 風よりあり 衣の色 一店

田よりのあそび 出まて 物時る 一

船の間や 土のあつきの物 一 万像

仮持よ 藤きり 明きて 物時る 互 播

しそく和 流るは 是する 根事 播 二河 け文

かり 藤とんの 町もゆく 一とれ 布 五

1117

1118



三井寺の眺

朝の湖しづれ々々を眺むるけり  
音美

振上る芥子よちりある木の葉の音  
琴之

ぬのよれや静かに吹らる木の葉の音  
西南

聴かぬりし初なるころなりちる木の音  
五粒

鴨のさけは静かに静かにあはれ  
五柳

船入へ休むよきつる小鴨の音  
若友

あつきの音をきくころは月夜  
一桃

とくしきちる可きころは月夜  
音美

昔も昔もぬるりの朝の海  
音美

海は静かに吹らる音をたたりけり  
音美

とくしきと静かなる音をたたりけり  
音美

風やめやなり静けり  
音美

あつきの音をきくころは月夜  
一法







まろくすくし 湯ゆく せふく 小橋の乳 全 撫

日くせせん 和しく ちわ 大根引 糸 明

おてあて 岩より ちまき 山 野 池

うらみ 井のこま 物へ 鼓や ちまのこま 涼 呼

きん しく ちまきよ ちま ちまの 鼓 一 止

甲のちれ ちまき ちまの 鼓 ちまの 鼓 甘 良

ちまのちれ ちまのちれ ちまのちれ ちまのちれ 一 乞

雪

初雪のち ちまのちれ ちまのちれ ちまのちれ 而 石

けつ ちまのちれ ちまのちれ ちまのちれ 一 泣

ちまのちれ ちまのちれ ちまのちれ ちまのちれ 浦 田

ちまのちれ ちまのちれ ちまのちれ ちまのちれ 碓 山

川 ちまのちれ ちまのちれ ちまのちれ 英 泉

人 ちまのちれ ちまのちれ ちまのちれ 松 木

ちまのちれ ちまのちれ ちまのちれ ちまのちれ 平 府



おれと汁の吸や 茶の 志

傘の 傘の 士 芳

山

うさ 柳や 水 柱の 向 舟

柳の 柳の 眠の 柳の 柳の 柳の

柳の 柳の 柳の 柳の 柳の上

柳の 柳の 柳の上 鳥 岬

柳の 柳の 柳の上 柳の 柳の上

柳の 柳の 柳の上 柳の 柳の上

柳の 柳の上

柳の 柳の上 柳の上 柳の上

柳の 柳の上 柳の上 柳の上

柳の 柳の上 柳の上 柳の上

柳の 柳の上 柳の上 柳の上

柳の 柳の上 柳の上 柳の上



あつた峰 へそあつたや細作守

戸名

あつたや 連ふもむけ守御

瓢言

あつたや 連ふもむけ守御

樽水

あつたの町と部 へそあつたや

梅意

年由と表

あつたや 連ふもむけ守御

戸名





